

ロシア・ウクライナの鉄鋼需給の現状と今後の展望

2006 年 11 月 21 日
(社) 日本鉄鋼連盟
輸出市場調査委員会

【ロシア】

1. 経済概況

ロシア経済は 98 年 8 月の通貨切り下げ以降、毎年高水準の経済成長を続けている。05 年も主にエネルギー価格の高騰を背景とした輸出の拡大等により**実質 GDP 成長率**は 6.4%を記録した。また、輸出で得た収益が企業の設備投資や個人消費を押し上げるなど、内需の盛り上がりも顕著である。06 年以降もエネルギー価格の動向に左右される部分はあるが、輸出と国内投資主導で 6%前後の堅実な経済成長が見込まれる。

2. 鉄鋼需要産業

固定資本投資は好調な企業の収益に後押しされ 03 年以降毎年二桁台の伸び率となっており、05 年も前年比 10.7%増となった。主な**鉄鋼需要産業**をみると、**建設**は個人ローンが充実した住宅建設を中心に活況が続いている。**石油・天然ガス開発**では既存パイプライン網のリプレース需要が定常的に存在するほか、ロシア北部や東シベリア、極東地域での新規開発が進められており、今後も大径管を含めた鋼管需要の順調な拡大が予想される。**自動車**は国内販売が外国車を中心に急激な増加を辿っており、ロシア国内への外資系企業の進出が相次ぐなど市場の拡大が早いテンポで続いている。

3. 鉄鋼需給

(1) 鋼材需要

需要部門別には、建設、機械、エネルギー、自動車等主要部門全てで鋼材需要の増加が見込まれる。特に、老朽化した公共インフラ更新や住宅の充実・整備など潜在需要が極めて大きいとみられる建設や、大型パイプラインプロジェクトが相次いでいるエネルギー関連の需要は大幅な伸びが予想される。一方、自動車関連の需要は堅調ではあるが、生産拡大の中心となっている外資系メーカーが、足下、大多数の自動車部品を輸入でまかなっているため、中長期的に現地生産が軌道に乗り、部品の現地調達が進展するまでは、高級鋼を中心とした国内鋼材の需要増にはそれほど貢献しないとの見方が一般的である。

鋼材品種別にみると、鋼板類、条鋼類の各品種で幅広い増加が見込まれる。また、石油・天然ガス開発向けの鋼管も順調な需要拡大が見込まれる。

(2) 鉄鋼生産とミルの設備投資

鉄鋼生産をみると、05 年は国内市場は好調が続いたものの、国際市況と外需の低迷から需給調整局面に入り、粗鋼生産は前年比 0.9%増の微増に止まった。しかし、この間にも各ミルは**設備改廃**に前倒しで取り組み、上工程から下工程に至るまで積極的な設備合理化を進めた。その結果、06 年に入ってから 1-9 月で粗鋼生産が前年比 7.4%増に回復し、鋼材では表面処理鋼板や大径管を中心とした鋼管等、高付加価値製品を含めた生産の増加が顕著にみられるよ

うになった。今後も原料自給率の向上や高付加価値製品に重点をおいた設備投資計画が相次いでおり、当面ロシアの鉄鋼生産は着実な拡大が続けると見込まれる。

(3) 鋼材輸出入

ロシアの**鋼材輸入**は国内供給が不足している高付加価値鋼板や鋼管類が中心となっており、05 年の輸入量はソ連邦崩壊後最高を記録した。今後も国内需要の高まりを背景に輸入需要も一定の水準を保つとみられるが、輸入に依存する製品は限定的であることやロシアミルの国内供給強化もあって、大幅な数量増は見込まれない。

一方**鋼材輸出**は、内需増が続くロシアミルが国内への供給に軸足を移しつつあることから、05 年は前年比 3.8%の増加に止まり、実績の判明している 06 年上期も前年同期比 4.0%の減少に転じている。しかし、現状でも輸出比率は依然 5 割を超えており、設備能力の拡張も続くことから今後輸出圧力が再び高まる可能性も排除できない。品種別には鋼塊・半製品が 06 年上期ではほぼ半分を占めており、鋼板類が約 35%（大半が熱延薄板類）、条鋼類 12%、鋼管・その他の順となっている。仕向先別にはトルコを含めた欧州の比率が高まる一方、中国を中心としたアジア向けの比率が低くなる傾向にある。

4. 国内流通

ロシア国内の鋼材販売に占めるメーカー直売の比率は約 7 割、問屋経由販売の比率は約 3 割と推定される。これを数量ベースで換算すると国内総需要（鋼材見掛消費）約 3,050 万トン中、メーカー直売が約 2,100 万トン、問屋販売が約 940 万トンとなる。ロシアのサービスセンターの客先は現状では建設、機械向けがほとんどであり、特に建設向けはサービスセンター取扱数量の約 70%を占めている。一方、自動車、鋼管、機械等のユーザー向けは要求品質レベルが高く、現状ではメーカー直売が品質管理の面で有利であることや、ユーザー自身が自社に加工設備を所有するケースが多いため、サービスセンターの役割はまだ小さい。

今後も建設向けを中心としたサービスセンターの発展が続く見通しで、一方、自動車向け等の高級鋼を対象としたサービスセンターが立ち上がる時期的見通しは予想が難しい状況にある。

5. 鉄鋼原料

ロシアの主要メーカーは Magnitogorsk 社を除いて自前の鉄鉱山・炭鉱を保有しており、鉄鉱石・原料炭とも自給率が高い。鉄鉱石では Severstal 社、Novolipetsk 社が自給率 100%を達成しており、Evraz グループ、Mechel とも約 9 割近い自給率になっている。一方、原料炭では Evraz グループ、Severstal 社、Mechel が自給率 100%を達成している。Novolipetsk 社は自給率 50%で、計画では原料炭の完全自給を 09 年を目途に達成する予定である。各社とも原料の安定調達と競争力の確保を重要な経営課題としており、原料部門を積極的な投資戦略の対象と位置付けている。

【ウクライナ】

1. 経済概況

05 年のウクライナ経済は主要輸出品の鉄鋼・非鉄金属の国際市況の低下や輸入依存度の高いエネルギー価格の上昇、更には政治の混乱等により大幅に失速し、**実質 GDP 成長率**は 2.6%と前年の 12.1%を大きく下回った。今後もロシアからの天然ガス価格引き上げや不安定な政治状況を考慮に入れると経済成長が過去のような 10%前後の高い伸び率を示すことは当面考えにくい状況だが、06 年以降の各種経済指標には底入れした徴候が表れており、景気は緩やかに回復に向かっているとみられる。

2. 鉄鋼需給

(1) 鉄鋼需要産業

固定資本投資は 05 年が前年比 1.9%増と前年の 28.0%増から急落したが、06 年上期は 12.2%増とやや回復した。主な**鉄鋼需要産業**をみると、**建設**は潜在的需要は高いとみられるが現状は低迷が続いている。一方、**自動車**は 05 年は景気の低迷を反映して需要の伸びは鈍化したが、基調としては乗用車を中心に堅調な拡大が続いている模様である。

(2) 鋼材需要

ウクライナの輸出比率は 05 年で 78%と高率を維持している。同国の**鋼材内需**は近年上昇基調にあり、05 年の鋼材見掛消費は前年比 8.8%の増加をみせたが、規模的には生産に対比すると依然貧弱な状況にあり、また輸出を含めた鋼材総需要では前年比微減となった。06 年上期は輸出の回復から春以降生産も回復したが、外需への依存度は依然高い水準にある。ウクライナ鉄鋼業にとっては国内需要の充実のため機械、建設等の需要産業の育成が課題である。

(3) 鉄鋼生産とミルの設備投資

05 年の**鉄鋼生産**は輸出市況の低迷や原料調達難等から減産を余儀なくされ、粗鋼生産は前年比 0.3%の減少となった。06 年に入ってから輸出の好転もあって 1-9 月で前年比 7.9%増に回復している。主要鉄鋼ミルにおける**設備近代化**は、高炉改修や平炉から転炉・連铸設備への転換等の上工程の合理化や環境・省エネルギー分野に重点が置かれている。能力的にも現状、新規の高炉建設等はなく、設備改修による漸進的な増強が中心となっている。

(4) 鋼材輸出入

ウクライナの**鉄鋼輸入**は年間 100～150 万トン程度に止まっており、品種別では銑鉄や鋼塊・半製品が多い。鋼材では国内で生産不可能な表面処理鋼板等が主要品種となっている。鋼材見掛消費に占める輸入比率は 10%前後となっており、今後も数量的な大幅増は見込まれない。

一方**鋼材輸出**は、ここ 10 年間で倍増し、05 年は日本、ロシアに次ぐ世界第 3 位の鋼材輸出国となった。品種別には鋼塊・半製品が最大で、05 年のシェアは 36%であるが、ウェイト的には減少傾向にある。一方、鋼板類は厚中板や熱延薄板類を中心に拡大傾向が続いており、05 年のシェアは 35%に達した。仕向先別には中国を含むアジア向けのシェアの低下が著しく、03 年の 35%から 05 年には 17.9%に急減した。特に中国向けは数量ベースで 03 年の 370 万トンから 05 年には 76 万トンと 2 年間で実に約 300 万トンの減少となっている。対照的にシェアが上昇したのは CIS やトルコを含む欧州向けで 05 年のシェアは 44%、アフリカや中東は条鋼

類を中心に 15%前後で安定的に推移している。

（鋼材輸出の見通し）

国内需要は回復傾向にあるが、その規模は生産に比べ僅かであり、大手ミルの設備投資状況も勘案すると、ウクライナは今後も鋼材輸出に注力するとみられる。向け先としては中国向けは今後も増加が見込めず、アジア向けは減少し、一方で欧州や中東などの比率が高まるものと予想される。ウクライナは EU、米国、ロシア等と通商問題を抱えており、向け先の多様化が重要な課題となっている。また、品種別には、海外単圧ミル買収によるスラブ輸出先確保の動きがあることや、大手ミルで熱延鋼板等への進出を計画しているところもあり、半製品および鋼板類の増加が見込まれる。

3．鉄鋼原料

ウクライナの主要メーカーでは Azovstal 社がグループ内に有力な鉄鉱山や炭鉱を保有しており、ほぼ自給可能となっている。また、Mittal Steel Kryviy Rih 社は鉄鉱石はほぼ自給し、原料炭は外部調達となっている。Ilyich 社や Zaporizhstal 社は鉄鉱石、原料炭で大規模な資産を保有しておらず、外部調達が主となっている。Ilyich 社では主要原料の自給率を高めるための投資を行っており、Mittal Steel Kryviy Rih 社も中長期的には原料炭の自給を目指している。また、鉄鉱石や原料炭とも輸入先はほぼ全量がロシアからとなっている。

以 上